

# 目指せ金星！！和裁職人大賞 [募集要項]

きものの仕立てが工業化されている昨今、体に馴染む着やすい仕立てがどんどん失われています。

それに伴い、仕立ての良し悪しに気づいて下さるお客様が、非常に少なくなっているのが現状です。

私たちは、本当に腕の良い職人が正当に評価されることを目指してこの活動を行っています。

腕の良い職人が正当な対価を得るためには、より多くのお客様に仕立ての良し悪しを知ってもらい、職人縫製が、工業製品や家庭和裁とどのように違うのか、わかりやすい基準で知ってもらう必要があります。

「あなたのその技術」を正当な対価につなげるために、私達と一緒に表舞台に出てみませんか？

優秀な職人を多数抱えている和裁所さま、ぜひ貴社の職人さんにもこのコンテストをご紹介ください。

選考方法	指定期日に合わせて、縫製した作品を送付してください。 東京キモノショー実行委員会・審査員にて校正に審査を行います。
賞	☆☆☆(三ツ星)・☆☆(二ツ星)・☆(一ツ星)
受賞者 特典	東京キモノショー2018にて受賞作品(上位数点)を展示。ホームページでも受賞者名を発表。パンフレットの配布やホームページでのリンク掲載も可能。 1万人以上のご来場者様に作品とお名前を見ていただくことができます。

審査員	<p>東京マイスター 坂間英継先生（坂間和裁所）  東京マイスター 草川幸郎先生（仕立 幸村）  東京マイスター 上野晃先生（お仕立て処うえの）  きものの未来協議会・東京キモノショー実行委員会</p>
-----	---

応募規定	<p>裕広衿女物長着。(一人で全て縫製した物、3年以内に縫製した物に限る。)</p> <p>※裏表ともに正絹のみ。紬・ちりめん・訪問着・小紋・着用の有無は問わない。</p>
応募方法	<p>まず、下記ホームページの応募フォームよりお申込みください。</p> <p><a href="http://tokyokimonoshow.com/wasai">http://tokyokimonoshow.com/wasai</a></p> <p>※返信はメールにてご連絡いたします。[@kimonomirai.org]からのメールが受信できるように設定したメールアドレスでご応募ください。</p> <p>2日以内に返信が無い場合は、メールの設定をご確認の上、再度ご応募ください。</p>
応募詳細	<p>①職人氏名 ②メールアドレス ③連絡先ご住所 ④連絡先お電話番号</p> <p>⑤所属 (小売店・和裁所・和裁学校など。所属なしでもご応募可能です。)</p> <p>⑥担当者名 ⑦担当者メールアドレス (本人以外に担当者がある場合。)</p> <p>⑧ホームページ (受賞の際にリンク先として表示したい URL。)</p> <p>※応募は職人本人でも所属店でも可能。ただし職人氏名は明記してください。</p>
応募締め切り	2019年4月15日

応募作品 送付期日	<p>指定日時【2019年4月23日 午前中着】で発送してください。 運送便は、クロネコヤマト便をお使い下さい。</p> <p>展示作品はゴールデンウィークのイベント終了時までお預かりいたします。 その他の作品は、審査後、講評を付けて着払いにてご返送いたします。</p>
応募作品 送付先※	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-4-6 市川ビル 1F スタジオアレコレ宛
応募費用	<p>応募費用は無料です。往復の送料のみご負担ください。</p> <p>返送は着払いにて発送いたしますので、着払いの返送伝票を同梱して下さい。</p>
個人情報の取扱い	受賞者以外の個人情報や応募の有無については公表いたしません。

## ■ 審査基準

技術審査	☆	<p>技術点が 80 点以上の作品に☆が 1 つ授与される。 参考基準：国家技能検定 1 級の合格と同レベル。</p>
	☆☆	<p>技術点が 90 点以上の作品に☆が 2 つ授与される。</p> <p>参考基準：検定試験や全国コンクールの中でも特に優秀な作品と同レベル。</p>

<p>着 装 審 査</p>	<p>+ ☆</p>	<p>技術審査で☆が授与された作品に対して、着 装 審 査 を 行 う。</p> <p>下 記 項 目 全 て に つ い て 基 準 を 満 た す 作 品 に、☆ が 1 つ 追 加 で 授 与 さ れ る。① 表 か ぶ り が 出 ない。② 掛 け 衿 が め くれ ない。③ 衿 肩 明 き の 皺 が 出 ない。</p> <p>④ 広 衿 を 半 分 に 折 っ た 際 に、ご ろ つ き が 出 た り 浮 い た り し ない。(半 衿 に 沿 う)</p>
----------------	------------	--



申 込 み 手 順

① ホームページの応募フォームよりお申込みください。

② メールにて申込番号をお知らせいたします。

ドコモと au のメールアドレスは返信が受信できません。2 日以内に返信がない場合は、パソコンからのメールを受信できるように設定をしてから、再度ご応募ください。

③ 送付期日に合わせて、別紙※欄の住所まで作品をお送りください。

\* 10cm×10cm ほどの小布に申込番号を記載し、応募作品の右前袖(表地のみ)に縫い付けてください。

\* 着払い伝票を同梱してください。(お届け先にご自身の住所・依頼主の欄に別紙※欄の住所を記載。)

\* 梱包の外側に、大きくわかりやすい字で申込番号を記載してください。

④ 審査後、受賞者にはメールにてご連絡をいたします。詳細は「結果発表」の項目をご確認ください。

その他の作品については、講評を付けて着払いにてご返送いたします。

⑤展示作品は、ゴールデンウィークのイベント終了時までお預かりし、着払いにてご返送いたします。

## ■結果発表

受賞者以外の方につきましては、作品の返送をもって結果発表に代えさせていただきます。受賞者の方には、4月25日(木)までにメールにてご連絡をいたします。印刷物への掲載項目をご確認いただき、数日以内に必ずご返信をお願いいたします。ご返信が無い場合は、印刷物への掲載はいたしかねますのでご了承くださいませ。配布したいパンフレットなどがございましたら、そちらもご用意ください。

■お問い合わせ先 ■ 2018 東京キモノショー実行委員会 (担当：高橋)

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-4-6 市川ビル 1F スタジオアレコレ内

Tel : 03-6264-9307 / Fax : 03-6264-9308 / Mail : wasai@kimonomirai.org

## ■受賞者の声



受賞したえんじ色の着物を手にする六久保満子さん。着ている着物も自ら仕立てた（高知新聞社）

六久保さんは、和裁のと言われる六久保さん。仕事をしていた母、美智コンクール出展など考え子さんから「腕に技術をもしなかつたが、知人に付けなさい」と言われ、熱心に勧められるうちに高校卒業後に高知市の和「仕事への評価を聞ける裁教室で学んだ。1997年に1級和裁技能士をい」と考え、応募を決め取得。5年前に和裁職人として独立した。同市にある呉服店「染匠」や個ていたえんじの色紋付き人の依頼を受け、着る人生地を使うことにした。の心に寄り添う着物を仕これは2年前に74歳で亡くなつた母が「自分のた和裁職人大賞のコンクめに作りなさい」と買つてくれたもの。それだけ台頭する中、手縫いの和に思いは強く、約20時間裁が正當に評価されることを目的に今年初めて開かれた。3人の職人による審査の結果、裾や袖などに施される白糸の細かい縫い目「べし」周囲に「謙虚すぎる」

### 六久保さん（香南市）

## 和裁士「日本一」

### 亡き母譲りの紋付き使う

の美しさが高く評価され、出展41人の中で最上位に輝いた。受賞作は東京キモノショーの会場内の特設ギャラリーに展示された。

六久保さんは応募のきっかけを与えてくれた知人の勧めで3年前に着付け教室に通い、着る楽しさにも目覚めた。「受賞は人との出会いに恵まれたから。亡くなった母が一番に喜んでくれるね」と皆に言ってもらえてうれしい」と語った。

ゴールデンウィーク中に東京・日本橋で開かれた「東京キモノショー2018」の中のイベントとして行われたコンクール「和裁職人大賞」で、香南市野市町土居の六久保満子さん(49)が日本一に輝いた。六久保さんは「和裁職人は普段は表舞台に立てない仕事。受賞で周囲の支えを実感できた」と喜んでいる。(村瀬佐保)

私

がこの賞に応募したのは、プライベートでお世話になっている着物通の女性に勧められたのがきっかけでした。私が応募を決めかね

ていると、「どんどん表に出て行きなさい」と背中を押してくれました。偶然にも手元に母親の残してくれていた反物が

あったのも幸いでした。

何より応募の一番の決め手は、自分の仕事をどう評価してもらえるのか、審査員の講評を聞きたかったからです。まさかこんな

賞をいただけるとは夢にも思っていませんでした。

受賞後、全国の和裁士さん達と知り合いになり、私が思っても無かった現状を知る事にもなりました。

例えば修行中に裁断を習うまでに時間がかかり、ひとり立ちするのが難しかったり。手取りの工賃とお客様が支払う金額とに余

りにも差があったり。和裁職だけで生活するのが大変だったり。

この和裁職人大賞の企画の意図に「技術に正当な対価を」とありますが、そこがもっと広く一般に知られるようになり、和裁職人が若い人に目指してもらい職業になれば和服業界に将来は無いと感じます。私に今出来る事は、技術を研ぎこつこつやっていく事。仕事の手間と技術を一人一人のお客様に説明し、それに対価を頂く事。個人としては、決して安くはない対価を頂く事に勇気が要りますが、自分だけでなく、若い職人に頑張ってもらい為に必要な事だと今回気づかされました。自分が変わっていく事が誰かの勇気になれば嬉しいです。

もう一つ、受賞後の大きな良い変化は、地元の新聞やテレビ局等に取材を受け県内の方に「和裁士」を知ってもらえた事。

ほとんどの人が見たこと無かった仕立ての工程や、和裁士の仕事を知ってもらえた事。その後、思わぬ所で「着物を縫ってる方ですよね？」と挨拶されたり、見た方からの依頼もあります。

影の存在だった和裁士も、こうして表に出してもらい事で良い変化があります。「和裁職人大賞」が毎年長く続き、着物＝呉服屋の選択肢だけでなく、着物＝和裁士も当たり前になっていてもらいたいです。